

新型コロナウイルス感染症 ワクチン接種のお知らせ

ワクチンは
無料
で接種できます

※ 3月8日時点の内容です。国の方針やワクチンの供給スケジュール等により変更になる場合があります。

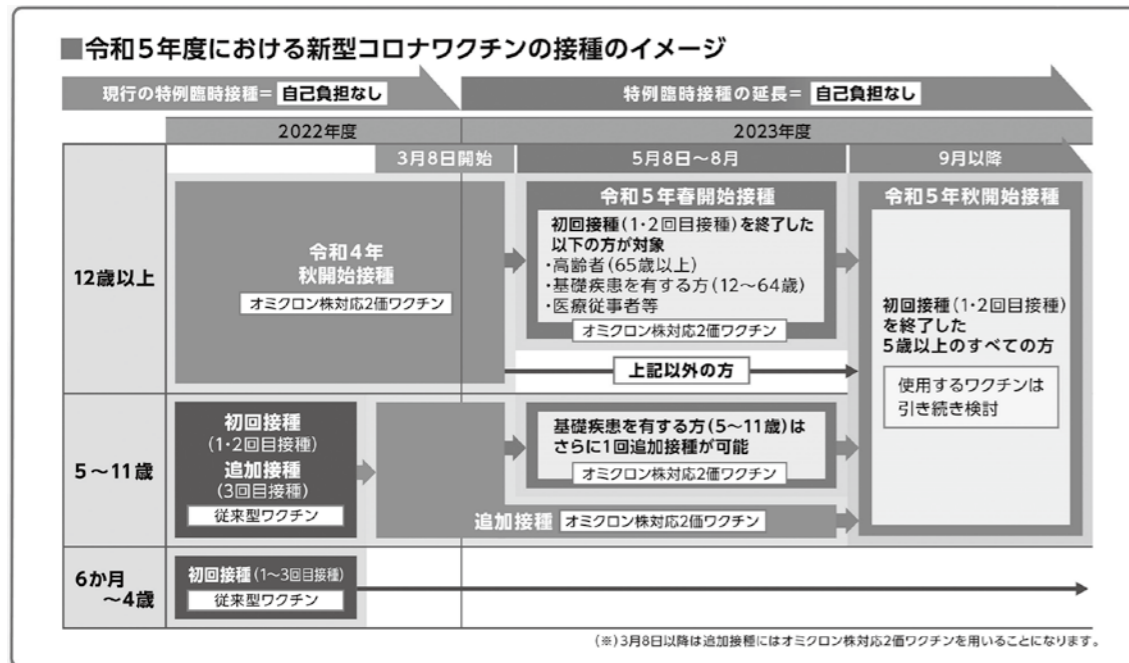
令和5年度の新型コロナワクチン接種について

国の方針により、特例臨時接種（自己負担なしのワクチン接種）の実施期間が、2024年3月末まで1年間延長されました。接種スケジュールは、初回接種（1・2回目）を完了した5歳以上の人を対象として秋から冬（9月～12月）にかけて1回接種を行うこととし、65歳以上の人と基礎疾患を有する人等については、春から夏（5月8日～8月）にかけて前倒してさらに1回接種を行うことになりました。

小児（5～11歳）の追加接種については、オミクロン株対応2価ワクチンの開始が他の年齢と比べ遅いことが考慮され、基礎疾患がない人でも8月末まで同ワクチンによる追加接種を受けることができます。

また、生後6カ月以上を対象とする従来株ワクチンによる初回接種（5歳以上は1・2回目、生後6カ月から4歳児は1～3回目）は継続します。

町は、接種体制が整い次第、対象者へ接種券等を発送しますが、規定の接種回数を受けていない人など、既にお手元に接種券がある人への再発送は行いません。規定の接種回数を受けていない人で接種券を紛失している人は、保健福祉センター（☎0197-44-4560）に連絡してください。



出典：厚生労働省「令和5年度 新型コロナワクチン接種に関するお知らせ」（2023年3月7日）

令和4年秋から開始したオミクロン株対応2価ワクチンによる追加接種を受けていない基礎疾患がない12歳以上65歳未満の人（医療機関や高齢者施設・障がい者施設等の従事者は除く）は、法令上、5月7日（町の最終日程：4月27日（木） 予防医学協会県南センター）以降、令和5年秋開始接種（9月～12月）まで追加接種を受けることができなくなります。

5月7日までに、オミクロン株対応2価ワクチンによる追加接種を希望する人は、必ず同日程内で接種を受けてください。

☎ 予約先 **新型コロナウイルスワクチン問い合わせセンター（コールセンター）**

☎ **0120-800-417**（受付時間：平日午前9時30分～午後4時）

※ 予約時には、お手元に接種券を用意してお掛けください。

社会福祉法人フレンドシップいわて 天皇陛下から御下賜金を拝受

社会福祉法人フレンドシップいわて（瀧川雄治理事長）は、天皇陛下から御下賜金を拝受しました。御下賜金は、天皇誕生日に際して社会福祉事業奨励のために全国の優良民間社会福祉事業施設等に金一封が下賜されるものです。2月21日、高橋寛寿町長に報告した瀧川理事長は「これからも職員の資質向上に努めていきたい」と決意を述べました。



高橋町長に報告した瀧川理事長（右2）と施設関係者ら

町選挙管理委員会委員長の宮舘敬さん 第26回参議院議員通常選挙総務大臣表彰受賞

町選挙管理委員会委員長の宮舘敬さん（千貫石）は、長年選挙の適正かつ効率的な管理執行等に尽力したとして、第26回参議院議員通常選挙に係る総務大臣表彰を受けました。3月1日、高橋寛寿町長に受賞を報告した宮舘さんは「受賞は私1人のものではなく、委員4人で一緒にいただいたもの」と周囲の支えに感謝していました。



表彰状を手に、笑顔を見せる宮舘さん（中央）

岩手金ケ崎ガス(株)から寄附金贈呈 町民のための事業へ活用願う

町は3月3日、岩手金ケ崎ガス株式会社（高橋庄美代表取締役）から寄附金100万円の贈呈を受けました。同社の創業50周年を記念して行われた寄附金の贈呈。高橋代表取締役は「町と町民の皆さんのおかげで50周年を迎えられた。皆さんのために役立てられればと思います。寄附を決めた」と話し、今後の発展を誓いました。



高橋庄美代表取締役（左）から目録を受け取る高橋町長（右）

県立農大の学生が全国大会の 「意見発表会」「学生懸賞作文」で上位入賞

「第33回ヤンマー学生懸賞論文・作文」作文の部で、県立農大の大井悠愛さん（酪農経営科2年）が銀賞、小野寺千華さん（果樹経営科1年）が銅賞を受賞しました。大井さんは「卒業後は家畜改良センターに就職するので、農大で学んだことを乳牛の飼養に生かしていきたい」、小野寺さんは「これからも自分の夢に向かってがんばって勉強していきたい」と抱負を語りました。

また、「令和4年度全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会」意見発表の部で、同校の小野寺拓真さん（果樹経営科2年）が優良賞を受賞しました。小野寺さんは「卒業後は実家のりんご農家に就農するので、SNSでの発信やスマート農業を取り入れながら自分のスタイルで栽培していきたい」と目を輝かせました。



受賞した小野寺千華さん（左）、大井さん（中央）、小野寺拓真さん（右）

▶ 大井 悠愛さん 作文タイトル：「全てはピーチから」
要旨：高校の部活で飼養していた母牛（名称ピーチ）が、出産直後に突然死亡した経験をきっかけに、分娩後の酸化ストレス低減の研究に取り組んでいることをつづった。

▶ 小野寺 千華さん 作文タイトル：「農業を伝える」
要旨：高校生の時に農業関係の就職者が少ないことに気づき、「農業の魅力を伝える人材になる」ことを将来目標に、りんごの加工品研究に取り組んでいることをつづった。

▶ 小野寺 拓真さん
発表課題：「りんご栽培5代目の私がすること」
要旨：今まで父親たち先代が行ってきた経営の素晴らしさと、さらに経営を発展させるために就農後に取り組むことについて発表した。